

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 新 D X 対応型著作権講座・個別相談会開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 県民文化局 文化伝承課 教育文化係 電話番号：058-272-1111 (内 3576)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,533 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,533	0	0	0	0	0	0	0	2,533
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

コロナ禍による急速なD Xの推進により、県民は日常生活の中で、オンラインによる会議や授業、動画配信、3 D V Rといった、新しい生活スタイルへの対応が求められているが、著作権の問題に直面することで不安を感じたり、デジタル化をためらったりする声が多くある。デジタル化に伴う著作権の取扱いを学ぶ機会や専門家に直接相談できる場が求められている。

(2) 事業内容

- ・著作権の専門家による講座と個別相談会の開催
- ・開催概要：1) 県内5圏域で著作権講座・個別相談会を開催
また、開催講座を希望に対し動画配信。
2) 希望する団体への専門家派遣
- ・対 象 者：県内の学校・図書館・文化芸術団体等

(3) 県負担・補助率の考え方

今後さらなるD Xの推進のためには、デジタル化に伴う著作権に関する知識や意識の向上が不可欠であり、当講座・個別相談会の開催について、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,170	講師謝金
旅費	645	費用弁償、業務旅費
消耗品費	10	
印刷製本費	53	チラシ作成費
役務費	84	郵便代
委託料	380	講義資料作成費、講座動画撮影・編集費
使用料	191	会場使用料
合計	2,533	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- デジタル化プロジェクト、「行政のデジタル化プロジェクト」、
「文化振興(イベント・文化芸術活動)ハイブリッド型DXプロジェクト」
- 「清流の国ぎふ」創成総合戦略による位置づけ
- 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
- ①「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

(2) 国・他県の状況

富山県 富山県民生涯学習カレッジ(公益財団法人富山県文化振興財団)
講座「映像制作講座(著作権講座)」

(3) 事業主体及びその妥当性

今後さらなるDXの推進のためには、デジタル化に伴う著作権に関する知識や意識の向上を目的とする当講座・個別相談会の開催について、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 デジタル化に伴う著作権に関する知識や意識が広く浸透し、アフターコロナ社会で、県民が安心してDXを推進することができる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
					(R6)	達成率
① 講座の満足度 (アンケートで「良かった」と回答した割合)				60%	80%	%
② 相談会の満足度 (アンケートで「良かった」と回答した割合)				60%	80%	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議で委員より「配信しようとしても著作権侵害の恐れがあり叶わない」、「権利問題の処理を相談できる」場所を求める、等の意見があったことをはじめ、県内の教員、司書、芸術家等からも同様の声があり、デジタル化に伴う著作権の取扱いを学ぶ機会や相談できる場を創出する必要性は高い。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか デジタル化に伴う著作権に関する知識や意識を広く県民に浸透させるため、専門家による講座と個別相談会を次年度以降も継続的に開催し、より多くの県民に受講の機会を設けることが不可欠である。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	